

生徒がともに平和について考え、議論する道徳授業

— STEAM 教育を取り入れた道徳と総合的な学習の時間とを結び付けた新たな平和学習の提案 —

たなか まりこ
田中 真理子

抄録：本研究は、引揚やユダヤ難民、ポーランド孤児について学んだ平和学習を道徳へと繋ぎ、生徒一人ひとりが自分の知識や経験と結び付けながら、平和についての見方や考え方をより深めていくことをねらいとした実践の成果と課題について明らかにしたものである。道徳授業を構想するにあたっては、CLIL（内容言語統合型学習）をもとに授業設計を行うとともに、STEAM教育を取り入れ、生徒の高次的な思考を活性化させるタスクを課題として設定することで、生徒がともに平和について想像豊かに考え、議論する授業を目指した。クラスメイトとともに活発に意見を述べ合いタスクに取り組む過程の中で、生徒たちは平和を多面的・多角的な視点から捉えることができたと同時に、平和や幸せの定義を問い直す必要性に気づく機会となった。また他人事になりがちな平和や幸せを巡る様々な課題を地球市民の一人としてグローバルな視点から我が事として捉えたり、平和を掴むためには「知識」「理解」「思考」「協力」などの要素が必要であるという社会の真実を知識と経験の相互作用から導き出すことができた。

キーワード：道徳、平和学習、STEAM 教育、総合的な学習の時間（総合学習）

はじめに

「OK Google」。たったこの一言で、自宅の電気の点灯や消灯、動画や音楽の再生など、自動操作可能な便利な時代となった。一方、人からAIへと指示を与え、必要な情報や操作指示を出すSociety4.0時代が終わりを告げ、AIやロボット側から私たち人間へと、様々な情報や選択肢が与えられるSociety5.0時代を迎えようとしている。このようなSociety5.0時代を生き抜く生徒たちには、必要な情報やモノ・ヒトを自ら取捨選択しながら自分が考える幸せや平和を自らの力で掴み取っていくことが求められるのではないだろうか。そこで本授業実践では、指導者側から与えられた課題をクラスメイトと協力しながら、主体的・対話的に考え、学びを深めていく活動を通して、多面的・多角的な視点から問題の本質を捉え、平和についての自らの価値観を問い直し、新たな価値を見出そうとする姿勢を育みたい。昨年度九月に75期生（中学3年生）を対象に実施した引揚やユダヤ難民を巡る歴史や当時の人々の生き方について学ぶ平和学習では、知識と体験の相互作用から、生徒一人ひとりが平和について考え、その概念を定義づけ、自分なりの平和観を探究しようとする姿勢を育むことができた。平和とは戦争がないことなのか。戦争がなければ、私たちは幸せになれるのか。平和はどんなふうに定義づけられるのだろうか。など、様々な学びや他者からの問いかけを通して、生徒一人ひとりの平和についての思考が活性化

された。例えば、生徒の一人は「平和とは、良いことも悪いことも全てひっくるめて、今の人生、生活悪くないなあ、幸せだなあと思えること」と定義づけた。このように誰かの考えに刺激を受け、自分の平和に対する価値を問い直すことで導き出した新たな平和についての見方・考え方を、本授業実践ではSTEAM教育を取り入れた道徳授業でさらに深めることを目指したい。昨年度の平和学習での学びを基幹とし、各教科の学力も活用した実践を試みることで、これまであまり教育現場で見受けられてこなかったSTEAM教育を取り入れた道徳授業の提案、また本実践の効果・効用を示すことで、平和学習と道徳とを結びつけた新たな平和学習の提案を試みたい。

I. 本研究の目的

昨年度の平和学習で生徒たちは、京都府の舞鶴引揚記念館で引揚について学び、福井県の敦賀ムゼウムで、ユダヤ難民とポーランド孤児について学んだ。本授業実践の取組みでは、総合的な学習の時間（以下、総合学習）として行った平和学習を軸に据え、総合学習と道徳とをつなぎ合わせた授業を行うことで、約一年半にわたる平和学習の取組みの完結を目指したい。また新たな試みとして、道徳授業にはSTEAM教育を取り入れ、平和についての昨年度の学びをより深める授業実践としたい。これまで教育現場では、道徳にSTEAM教育を取り入れた授業実践はあまりみられないので、本授業実践の成果を分析

することによって、Society5.0時代を見据えた新たな道徳授業の提案へと繋げたい。実践成果を分析するにあたっては、生徒たちの学びの深まりがどの程度みられ、それがどのようなものであるのかは重要な問いである。そこで、以下の基本的な二つの問いに答えることを本研究の目的とする。本実践は平和学習をベースとしたSTEAM教育を取り入れた道徳の授業実践であるので、生徒たち一人ひとりが、

(I) 多面的・多角的な視点から平和や幸せについて捉え、考えをより深めることができたか。

(II) 昨年度の平和学習での学びを軸に、平和について自分たちで掴み取っていく必要があるという事実気づくことができたか。

さらに上記の二つの目的に加えて、本取組みは総合学習とSTEAM教育を取り入れた道徳とを繋ぎ合わせた新たな平和学習の実践であるので、

(III) 新たな平和学習の学びとして、どのような効果・効用がみられ、課題はどのようなものであるのか

について明らかにした上で、STEAM教育を取り入れた道徳授業のあり方についても示唆を与えたい。

II. 平和学習を出発点とした道徳授業の取組み

—道徳にSTEAM教育を取り入れた新たな道徳授業の提案—

本授業の目標は、2012年にブラジルのリオデジャネイロで行われた国連持続可能な開発会議（リオ会議）における南米ウルグアイのムヒカ大統領のスピーチの理解を通して、「発展とは何か」「幸せとは何か」「平和とは何か」という生涯普遍的な問いに対して探究しながら、平和についての考えを深めていくことである。昨年度から継続してきた平和学習の効果・効用を見取る手立てとして、自分が考える平和を写真に撮り、その写真に込めた想いを簡潔に伝えるTenstagramの作成をアウトプットタスクとして設定した（資料①②参照）。Tenstagramは昨年度の平和学習のまとめ課題でもあったので、本授業を終えて作成したものと昨年度の作品との比較を試みることで、平和についての学びの深まりを体得できるような学びをデザインした。具体的に述べると、学習内容に重きを置きながら、外国語学習を行っていくCLIL（Content and Language Integrated Learning：内容言語統合型学習）をベースに、CLILに重要な4つの要素である「内容（Content）」「言語（Communication）」「思考（Cognition）」「協学（Culture）」を取り入れた授業設計を行った。授業立案では、以下の二つの点について工夫した。一つ目が、生徒がともに平和について考え、議論する授業を実現させる上で大切な生徒の高次思考力を活性

化させるタスク作りである。次に、授業指導案を作成するにあたって、図1に示したCLIL授業の流れを意識した。以下に、図1のCLIL授業の四つの段階で、それぞれ工夫した点とその成果について述べていく。

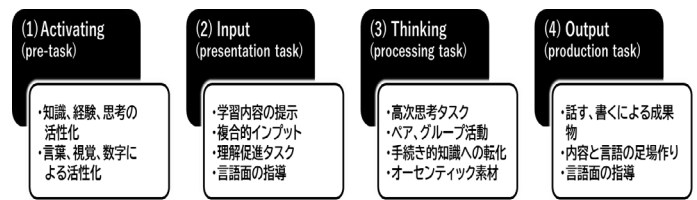


図1 CLIL 授業の流れ（池田 2016）

1. 生徒がともに平和について考え、議論することをねらいとした学習への動機づけ —Activating—

生徒の授業への興味・関心、期待を高める知識や思考の活性化が重要となる導入段階では、本授業のねらいである「平和」を焦点化するために、昨年度に作成したTenstagramを用いた。Tenstagramでは、生徒一人ひとりが舞鶴・敦賀の地で考えた平和を写真に撮って表現しているもので、昨年度の学びを実体験から振り返ることができることを考えた。また平和学習を振り返ることで、生徒一人ひとりが平和について身近に考えることができることを意識した。図2は生徒たちが図3を見ながら、「作成者が考えた平和とは何か」という授業者から投げかけられた問いについて考えている場面である。



図2 学年の仲間が考えた平和について考える生徒の様子



図3 授業時にスライドで提示した昨年度の生徒作品

昨年度の平和学習でのアウトプットタスクとして制作した作品を用いて、学年の仲間が考えた平和について想像することで、生徒たちは平和という自分事として考え難い学習内容にも興味や関心を持ち、作成者が考えた平和について「何やろ？」と、学級内でやり取りしながら考えることができた。また生徒同士がやり取りすることによって、生徒の緊張を和らげる効果もあった。作品を提示すると、「なつかしい」という生徒の声も聞かれ、授業の導入でいかに生徒を引きつけるかが、生徒の授業への動機づけを高める方法であることが確認できた。同時に、生徒が昨年度の平和学習と本授業とを結びつけ、平和学習にこれから取り組んでいくんだという姿勢や学習環境づくりへの足場がけとなった。導入の最後には、昨年度の平和学習のまとめ課題とした「私にとっての平和って？」をテーマにした小論文から、生徒が書いた文章の一節を紹介し、舞鶴・敦賀での平和学習の振り返りから本時へと繋げた。以下が、生徒たちと共有した内容である。

平和とは、心の持ちよう一つで変わるものだということを感じ取りました。これらの経験と私の考えを総動員して出した答えは、平和とは、良いことも悪いことも全てひっくり返して、今の人生、生活、悪くないなあ、幸せだなあと思えることです。（中略）つらい時こそ、幸せセンサーを敏感にして、いつ、誰に「今幸せ？」と聞かれても「幸せ」だと自信を持って言える。そんな人生を送れたら最高だ。

生徒小論文より引用

2. STEAM 教育を軸に平和について多面的・多角的な視点から考える工夫—Input から Thinking へ—

道徳にSTEAM教育を取り入れながら、昨年度の平和学習での学びをさらに深められるような授業設計をする上で、「教材選び」は大切である。本授業の内容項目である「C-18 国際理解と国際貢献」という道徳的価値の理解を深めながら、生徒同士がともに考え議論し、自己内対話を繰り返す中で自分にとっての平和や幸せについて模索し続ける授業を行うために、本授業では『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』（2014）を教材として授業を行うこととした。本教材に決定した理由は、ムヒカ大統領のスピーチ原文ではなく絵本であるので、生徒たちが容易に内容を理解できること、また本授業のねらいである「平和」についてを、それに付随する「幸せ」「豊かさ」「貧しさ」「開発」などの地球規模の諸課題を解決する上で欠かせない概念について、問題の本質に迫りながらグローバルな視点から考えることができるからである。あえて中学生に絵本を教材として用いることが簡単な内容をより深い理解へ

と導き、本授業の展開における中心的な活動として設定したSTEAM教育を取り入れたタスク課題へと繋げるために効果的な読み物教材であると判断した。

（1）補助発問を多用した読み物教材の深い理解—Input—

ここからは、学習指導案（123頁参照）をもとに、授業実践で心がけたことについて述べていきたい。発問1、2は、ムヒカ大統領の生き方や信念の理解を確認するために設定したものである。ここでは、短文で答えがちな生徒の考えをより深く引き出すために、「補助発問」を多用することを意識した。例えば、発問1での「なぜ貧しい格好でムヒカ大統領は会議に出席したのだろうか」という問いに対して、「自分が目立つため」と答えた生徒に対しては、「なぜ自分が目立ちたかったのだろうか」と問い返した。図4は補助発問として、問い返しを行っている場面である。問い返した理由としては、ムヒカ大統領は着飾ることができる地位と経済力を持っているにも関わらず、「目立つため」と答えた理由を生徒に聞くことが、今後の授業展開に大切になると考えたからである。授業者からの問い返しによって生徒は、自分が考えてこなかった問いに向き合い、「自分の生活に何も不自由していないことを伝えたかったから」と考えを深めることを通して、「豊かさ」「貧しさ」についても考えを巡らせることができた。同様に、「ありのままを見せたい」と答えた生徒に対して、「ありのままに関して詳しく教えて」と問い返すことで、「大統領としての地位ある立場の自分ではなく、自分も国民の一人である、普段の自分、普段の生活を見せたい」という思いがあったという深い考えを生徒から掘り出すことが出来た。そしてこのような生徒の考えを学級で全体共有することが出来た。以上のように、導入段階から、「なぜ」「もっと詳しく教えて」などと補助発問を多用することで、ムヒカ大統領の深い理解に迫ることを心がけた。

発問1から補助発問を効果的に用いて、自分ではこれまで考えてこなかったことを掘り出す手立てと



図4 生徒に補助発問をする様子

しながら、ムヒカ大統領の考え方や生き方を学級全体でより広く深く考えることは、発問2での「ムヒカ大統領のスピーチに詰まっているものは何か」という問いに対する回答での生徒たちの多様な意見へと繋がった。表1は、生徒たちが授業ワークシートに記述した自分の考えである。また図5は、授業時の発問2に対する考えとして生徒たちが述べたことを板書したものである。表1はもちろん、図5からも、生徒たちがムヒカ大統領のスピーチを多様な見方・考え方から捉えていることが分かる。補助発問を多用することに加えて、導入段階からペアやグループで意見交流をし、クラスメイトの見方や考え方に触れる機会を意図的に設けたことも、生徒たちがクラスメイトの考えを受けて自らの考えをより深めていく手立てとなったと考える。例えば、図5に示したことから生徒たちの探究活動を分析すると、自分の意見を基幹に、ある生徒が「本来、人間が持つべき慈悲の心」と述べると、次の生徒は「人間が持つべきものが欠けていることへの警告。人は、お金のために働いていて、本当の幸せを見失っているのではないか」と述べた。これらの意見を受けて「働くことを考えると、家族や大切な人のために働く意識が低い」とある生徒は意見を述べ、その意見を受けて「(私たちは)自分の豊かさを求める傾向にある」という考えを導き出す生徒がいた。このような思考活動が授業内で出来た理由には、ムヒカ大統領の生き方や信念についての理解を巡る探究活動を通して、生徒がクラスメイトの考えや意見を聞きながら自己内対話し、ムヒカ大統領の生き方や信念についてより多面的・多角的な視点から深めようとする主体的で対話的な探究活動が出来ていたからだと考える。

以上のような発問2の学びの深まりによって、本授業の中心的なタスク活動である発問3の補助発問として活動前に行った「命とは誰の命か」という問

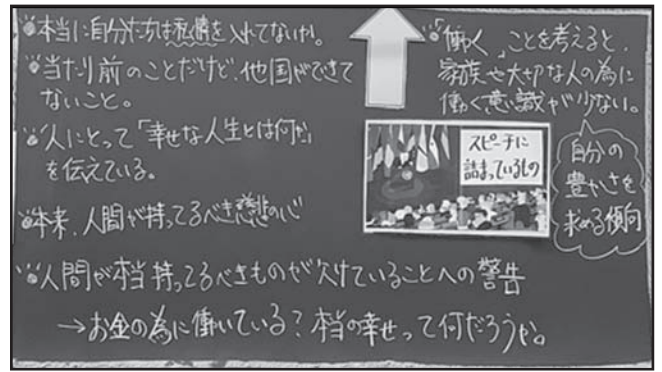


図5 発問2の板書の拡大図



図6 生徒がペアで意見交流する様子



図7 ペアでの意見交流後、考えを全体共有する様子

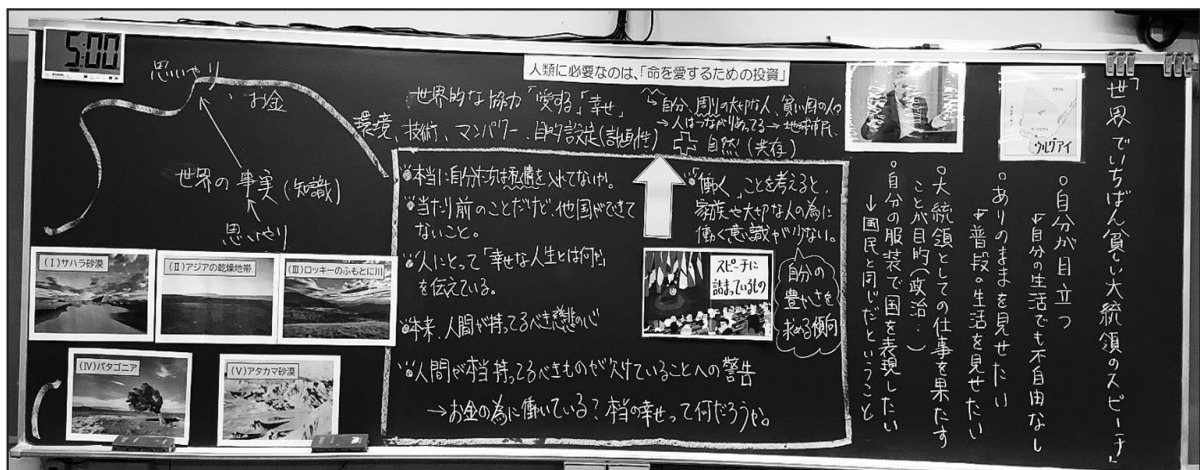


図8 授業の板書（2023年11月11日（土）授業後に撮影）

表1 発問2に対する生徒のワークシートにおける記述

| 項目 | 発問2「ムヒカ大統領のスピーチに詰まっていたものは何か」 |
|------------------------|---|
| 他国との比較 | 他国の大統領とは違う視点の訴え |
| 警告 | 現状を変えないといけないという強い危機感 |
| | 本当に課題について真剣に取り組む気があるのか |
| | 目先の事しか考えてないのではないか。お金（利益）にとらわれてないか |
| | 環境や今の現状に対する普遍的な考え |
| | 当たり前ではあるけど、できていないこと |
| | 世界の現状 |
| | 身近なことに気づく。自分の国だけを見て進めるのではなく、他国と比較して進めること |
| | 会議での他国のスピーチは、私情を含んでいないか |
| 警告 実現の困難さ | 地球の未来を考える場で、本当に自身、自国の私情を入れていないかの問いかけ |
| | 今の現状を変えたい。人々の心の面で大切なこと |
| 幸せの追究 | 人間として生きる上で、今、世界は欲張り過ぎていること（自分の利益を優先している） |
| | 地球の未来を考えることは贅沢を省くことだからとても難しい |
| | 今から自分たちがどうするかは技術などの小難しい話ではなく、人間の幸せに根差したことなのだという事 |
| | 人は幸せの定義について一度見直すべきだということ |
| | 誰もが有意義に生活できること |
| | 人の幸せ |
| | お金＞自分の幸せになってない？ 自分の幸せとは、死ぬときに「この人生、楽しかった！」と思うこと |
| | お金やモノが豊富にあることだけが幸せではないということ 国の発展は常に幸福を達成するためにあるということ 幸せとは何か、また私たちの現状を見て、何をすべきか |
| 思いやり | 競争における弱者への慈悲 |
| | 本来、人間が持っているべき慈悲の心 |
| 持続可能性 | 新しいことをするもの大事だけど、過去から行ってきたものを大切にすべき |
| 幸せの追究 思いやり 持続可能性 | 人間の幸福、愛の重みについて、人類の過ち、本来の人間 |
| 後悔と再起 | 環境を悪くしたのは人間である。幸せを求めすぎた。人間たちで環境を取り戻さなければならない |
| 生き方、未来 | 夢、希望、生き様 |
| 生き方の追究 在り方の追究 | 今の生き方を続けてはいけないということ。もっとよい生き方を見つけないといけない |
| | 他国の考えるような環境改善への取り組みや、貧しさをなくすというような表面、建前上の行動ではなく、真に必要なことは何なのか |
| | 世間でよく言われていることをそれっぽく並べるのではなく、人の生活を客観的（意見の裏に欲が見え隠れしていることがある）にみるのが大切だという想い どのように環境を変えるかではなく、その根本についての世界へのメッセージ。人間として生き方 |
| 警告 幸せの追究 思いやり | 人間が本来あるべき姿から逸脱しているという注意喚起 本当に大事なもの、こと、幸せのあり方、何のために働くのか |
| | 目に見えている、問題視されていることが全てではなく、見えていない根本的な問題がある。お金のしか目が向いていない現状、本当の幸せってなんだ…？本当に大切なものがだんだん見えなくなってきている |
| | 技術の発展など、お金儲けのことしか考えていない今の人類に対する訴え。これは正しいことなのか。世界中の人たちが満足して生きているのか。自分のことしか考えていない |
| その他 | 今の大切さ |

いに対して、「自分」「周り」「世界中の人々」「貧しい国の人々」という意見からさらにそれらを発展させ、「人はみんなつながり合っているので、地球市民だ」という意見が導き出された。この問いは本授業のねらいの達成に向けて大切な問いであったので、個人で考えさせた後により考えが深まるように生徒同士で30秒ほど意見交流する時間を確保した（図6参照）。短時間でも意見交流することを通して、新たな見方や考え方に気づく時間となったことも、生徒たちの意見や考えの深まりの成果だと推測している。

(2) STEAM教育を取り入れたタスク活動

－Thinking から Output へ－

次に、読み物教材の理解を前提にして行った本授業の展開における中心的な活動であるジグソー活動について述べていく。本授業実践は道徳にSTEAM教育を取り入れることが新たな試みであるので、はじめにどのようにSTEAM教育を取り入れたのかについて述べたい。STEAM教育は、STEM教育にデザインや感性などを表すArtsを取り入れたものである。本授業では図9のようにSTEAM教育の授業デザインを行った。具体的に述べると、道徳と理科（環境問題）を文理融合させる授業設計を行うことでSTEAM

教育の実践を試みることにした。また設計段階においては、生徒たちが考え議論する探究テーマに理系の設問が多かったので、探究活動を行う中で人と人との繋がりや人間愛、自然愛などを同時に考える必然性が生まれるように「教材」と「指導法」を工夫した。そして生徒たちの探究活動から、新たな課題発見→探究→価値創造や実現性の可否などについて様々な視点から考えられることを目指した。

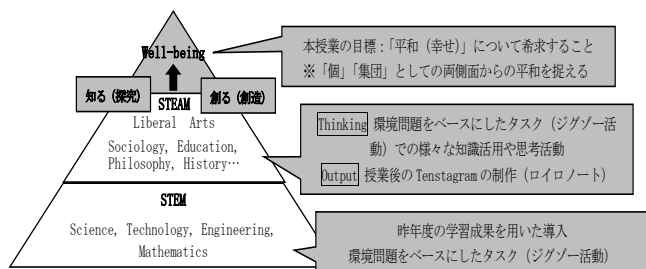


図9 STEAM教育を取り入れた授業デザイン
(川村【2022】を参考に筆者作成)

(i) ジグゾー活動とその工夫ーThinkingー

本授業の読み物教材を理解した上で、STEAM教育を取り入れたタスク、さらにそのタスクが生徒の平和についての思考をより活性化させるものとなるようにジグゾー活動を取り入れた。ジグゾー活動では四人一班となり、司会者を一人決めた上で与えられたテーマに関して自分たちの考えを共有したり、新たな考えをクラスメイトとともに創っていくものを想定している。今回の探究テーマは、ムヒカ大統領が述べる「人類に必要な命を愛するための投資」の五つの考えに関して、それらを実現するために今世界に必要なことは何かを考えることとした。ムヒカ大統領が考えた命を愛するための投資は、以下のようなものである。

| ムヒカ大統領が考える 「人類に必要な命を愛するための投資」 |
|--|
| (I) サハラ砂漠の真ん中に大量の塩水が必要で、気候変動の対策として、塩水を蒸発させる。【1班】 |
| (II) シベリア北部の氷で、アジアの乾燥地帯に飲み水を引く。【2班・9班】 |
| (III) アラスカの氷でロッキーのふもとに川を作り、メキシコ北部まで流す。【3班・8班】 |
| (IV) パタゴニアを人が住めるようにする。【4班・7班】 |
| (V) アタカマ砂漠に木を植えて、世界一乾いた砂漠の気候を変える。【5班・6班】 |
| ※予め、五つのテーマと、各班が担当するテーマ一つを生徒たちと共有した。 |

本来、司会者の役割や考えたい探究テーマは生徒たちに自己選択させることが、動機づけや目的意識を持った活動にするために最もよい形式ではあるが、活動時間が30分程度であるので、時間短縮のため司会者と探究テーマは授業者側で指定した。し

かしながら、生徒が興味を持ち、考え議論したいテーマを班移動の際に自由選択できるように、活動前に予め各テーマの担当班を全体共有した。これにより四回の班移動で、同じ探究テーマをもっと深めたいと感じた生徒がいた場合も、同じテーマについて考える班に移動できるように工夫した。一方、各班で一人、司会者として指名された生徒は司会進行をする役割があるので、班移動はできなかったことが課題として挙げられることを付け加えておきたい。

複雑なジグゾー活動を円滑に進めるにあたって、工夫したことについても述べていきたい。円滑に活動を行うために本授業実践の前に予めホームグループ（最初の班）から、

- ①司会者（移動しない人）の決定（授業者の指名による）
- ②ジグゾー活動の事前練習（1回）
- ③話し合われた内容の記録の取り方の練習と確認を行った。なお、練習、当日ともにジグゾー活動は、「ジグゾー法の活動の流れ」（111頁参照）に示したように活動を進めた。ただし、②事前練習における探究テーマに関しては当日と異なることを付け加えておく。以下に事前練習で行ったテーマについても示しておく。

| ジグゾー活動の事前練習で用いた探究テーマ |
|---|
| (I) 体育大会の四方綱引きでもう一勝するために必要なことは何か。 |
| (II) 学芸会の劇「ルドベキア」を最高のものにするために必要なことは何か。 |
| (III) 合唱の際にきれいなハーモニーをつくるために必要なことは何か。 |
| (IV) 淀川をきれいに保つために必要なことは何か。 |
| (V) 地球温暖化を防ぐためにできることは何か。 |
| ※事前練習では、生徒たちにとって身近なテーマを設定した。また予め五つのテーマは全体共有しなかった。 |

活動中は、話し合われた内容を可視化するために、マッピングの作成を行った。マッピングを作成する際には、生徒の思考活動がどの場面で行われたのかを見取るために、活動回数に応じてペンの色を変える工夫を行った。マッピングという手法とペンの色を変えるという工夫により、生徒が平和について多面的・多角的な視点から捉えられている様子が分かった。本活動においてマッピングを用いた理由は、ジグゾー活動の事前練習の際、話し合い活動の記録を箇条書きで取るように指示したところ、図14のように生徒の多面的・多角的な視点からの学びの深まりが見えにくいという課題が明らかになったからである。図14から分かるように、生徒から意見は多く出るものの、出た意見が深められるのではなく、新たな意見を出すことに集中する傾向が見られた。その課題を改善するために、図15のようにマッ

ピングの手法を用いることにした。生徒たちにとってマッピングは初めての挑戦であったが、意見や情報共有を通して自分たちの考えを深めていこうとする様子がどの班からも見られたことは大きな成果であっ

た。またマッピングの手法により、指導者が机間巡視した際にも、生徒の思考が行き詰っている様子が分かりやすいので、生徒の見方・考え方を広げ、深めるために声掛けをする手立てとしても効果的であった。

| ジグゾー法の活動の流れ（エリオット・アロンソン提唱） | |
|----------------------------|---|
| ① | 四人班を作り、その内の一名を司会者（移動しない人）とする。 ※この四人班をホームグループと呼ぶ。また今回の各班の司会者は授業者が予め指名した。 |
| ② | 四人班で指定されたテーマを実現させるために、世界に必要なことを考える。【5分】→ ピンク色 ※司会者が中心となって、ファシリテーターを務める。（ただし、記録を取る人は各班で決定する） |
| ③ | 司会者以外の三人は他の班に移動する。その際、三人はそれぞれ違う班に移動する。【3分】→ 水色 ※司会者はこれまでに話し合った内容を移動してきたクラスメイトに伝えた上で、考えが深められるように意見交換を進行する。 |
| ④ | ③の活動を、二回繰り返す。【3分×2回】→ 黄緑色、紫色 ※移動の際、一度、同じ班で意見交換したメンバーと同じにならないようにする。 |
| ⑤ | 最初の四人班（ホームグループ）に戻り、意見交換と発表準備をする。【5分】→ オレンジ色 ※司会者は、これまで意見交流して得られた情報を伝えた上で、それぞれのメンバーが他の班で得てきた情報や意見を共有しながら、さらに多面的・多角的な視点から考えが深められるようにする。 ※発表の準備をする。（マッピングに書いたものの中から、 キーワード を検討し、 赤色 で線を引く）。 |



図 10 ジグゾー活動の様子①



図 11 ジグゾー活動の様子②



図 12 ジグゾー活動の机間巡視の様子①



図 13 ジグゾー活動の机間巡視の様子②

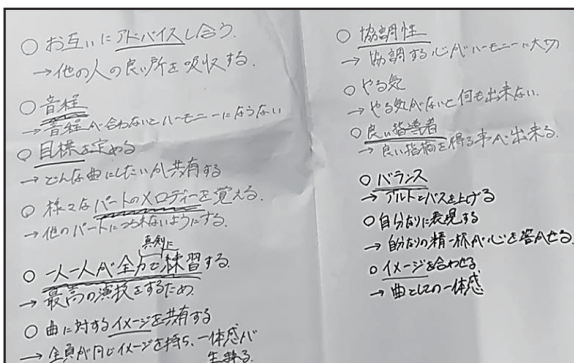


図 14 箇条書きでの記録（事前練習）

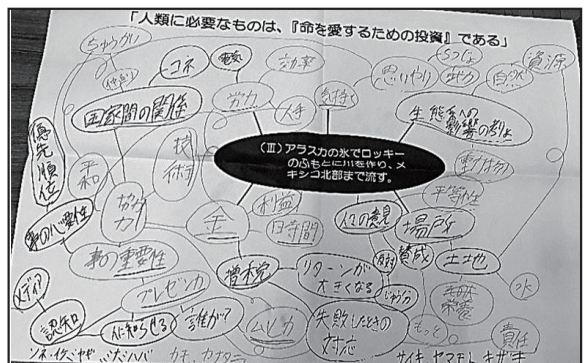


図 15 マッピングでの記録（当日作成）

(ii) ジグゾー活動における成果 —Output—

マッピングの記録から分かるジグゾー活動における成果は、図16にみられるように、多くの班が地球規模の環境問題に興味を持ち、世界全体が現状を知り、理解することが最も大切であるという結論を導き出していることである。そしてまた、自らの「豊かさ」「幸せ」「平和」のみを追求するのではなく、互いに協力し合い、他者や他国への思いやりや慈悲の心を持つ必要があることを改めて実感している様子を見取ることができる。その中には、図15、17に見られるように、ムヒカ大統領が述べた「命を愛するための投資」の命には、生態系などの新たな発見もみられたこと、さらにタスクに取り組む中で、ムヒカ大統領の投資は、「本当にやってもいい投資なのか」「愛のある投資と言えるのか」など、ムヒカ大統領が考える誰かのために行う行為や行動が、逆に誰か（何か）の平和や居場所を奪ったりしないのか、など論理的・批判的思考を持って、物事を考える生徒の様子が全体共有の場から見受けられたことも大きな成果であった。このような学びの深まりがみられた理由として、生徒たちがクラスメイトの意見や考えを知り、さらに深めていく手段としてマッピングの手法を取ったことが有効であったと推測する。

次に、授業内での発表と授業後のアンケートから分かるジグゾー活動の成果についてである。ジグゾー活動の最後では、発問3に対する各班の考えとともに、クラスメイトと考え議論する中で、「どんな発見があったのか」「どんな問いを見つけたか」「どういう思いで班活動をしていたか」について、全体交流する場面を設定した。大きな成果としては、当日、発表した生徒たちが「環境問題という点しか共通してなくて、考える国やその内容は全く違っただけで、どの班も相手を思いやる気持ちや協力が最も大切なことであるという同じ結論になっていることがとても印象的だった」と述べたことである。また授業後に、より詳しく生徒たちの学びについて知

るために、各班で司会を担当した生徒たちにgoogle formを用いてアンケート調査を行ったところ、表2のような回答が得られた。「どういう思いで活動をしていたのか」という質問の回答からは、生徒たちが自分の役割を全うする以上の目的意識を持って活動に取り組んでいたことが分かった。具体的な目的意識については、生徒Aのように、「ムヒカ大統領の想いを無駄にしたくない」と考え活動に取り組む生徒もいれば、生徒Bのようにクラスメイトが述べる意見をまとめるだけではなく、自ら意見を積極的に言うことを大切にしたいと考えていた生徒、逆に生徒C、Eのようにクラスメイトの意見を聞くことを大切にしたいと思っていた生徒など、生徒一人ひとりが目的意識を持って活動に臨んでいたことが分かった。このように生徒たち一人ひとりが目的意識を持って取り組んだ活動であるからこそ、活発な意見のやり取りが行われ、生徒D、Fが述べるように「仲間と協力することは楽しい」という考えに至ったのだと考える。また活動を通して、生徒Hのように世界の現実に目を向け、地球規模の諸課題について世界中の人々に知ってもらうことがまずは必要であるということを通り導き出そうとする姿勢が見受けられたことも大きな成果であった。

本アンケートの結果からは、クラスメイトとともに活動することを通して、生徒一人ひとりがマッピングの効果に気づいたり、自分の平和についての見方・考え方が深まっていることに気づいたり、また世界の現実や事実について知り、伝える大切さにも気づいていることが明らかになった。そしてその学びの過程の中で、生徒A、B、Cのように、世界平和を達成する方法について考えようとする姿勢、平和のために自分たちに出来ることは何なのかを模索しようとする生徒E、Fのような生徒もいることが分かった。また生徒Gのように、ムヒカ大統領のスピーチからの学びをより深めようと、貧しさや平和について追究していこうとする生徒もいた。さらに

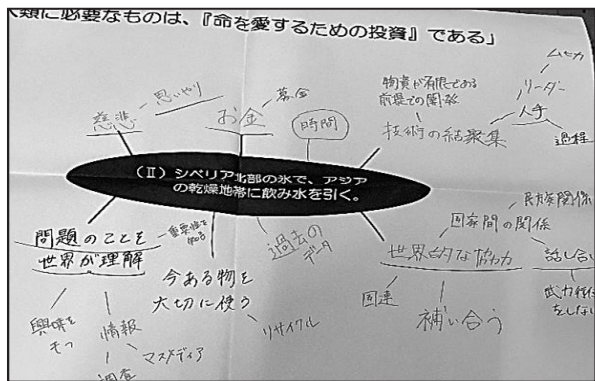


図16 生徒たちが作成したマッピング（2班）

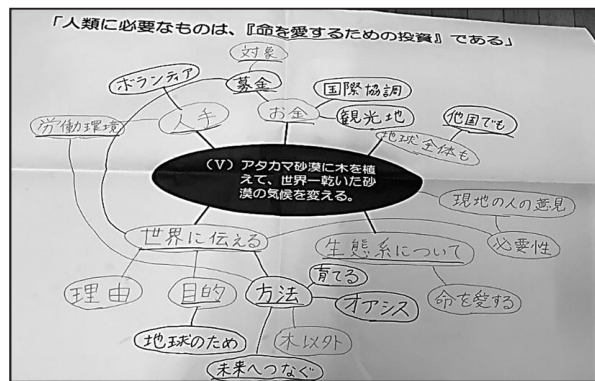


図17 生徒たちが作成したマッピング（5班）

生徒Hのように、世界の現実から協力は言葉では簡単だが、協力の大切さが分かっているにも関わらず、現実には戦争や紛争が世界では絶えず起きている事実を目に向け、国家間における「協力」を

現する難しさを指摘するなど、論理的・批判的な思考を働かせた意見が出たことも、ムヒカ大統領からの学びと現実での知識を生徒自らが結びつけ、活動内容を考えた成果であると考えている。

表2 司会担当生徒へのジグゾー活動での学びについてのアンケート結果

| 生徒 | どんな発見があったか | クラスメイトと議論し、どんな問いを見つけたか | どういう思いで活動をしていたか |
|----|---|--|--|
| A | 世界には課題がいっぱいある。 | 地球規模の課題の発見 何をすれば、世界は平和になるだろう。 | 平和を実現する方法 ムヒカ大統領のスピーチを無駄にしない ムヒカ氏の想いを繋ぐ |
| B | フローチャートにすることで、難しいテーマだったけど意見が出て良かった。 | マップニングの効果 何が大切なのか考えたけど、具体的な対策は何なのかということ。 | 具体的な対応策 ただまとめるだけじゃなくて、意見を言うことを意識した。 |
| C | 最初の班では出なかった意見も、メンバーを変えると他の意見が出てきたので、人それぞれ意見が違い、色んな人に聞いた方がより多くの意見や考えを知ることができると感じた。 | 具体的な根拠はあるかという疑問 世界的な課題を解決するには、国際的に理解し協力することが必要だが、それを実現することは難しいと知り、実現するにはどのようなことが必要なのか考えさせられた。 | 興味深い楽しい 5つの課題について、ジグゾー活動を通してクラスメイトから様々な意見を聞き、世界に必要なことについて考えたいという思いで活動した。 |
| D | 自分だけでは考えが広げられない部分も、多くの人と話し合っ意見交換することで、自分にはなかった考え方や視点を知ることができた。結果的に、テーマに対して多視点から見た意見を出すことができた。 | 新たな発見 自分たち出来ること テーマとしてあがっている内容が、本当に実現可能なのかや、自分たちが出した考えや意見が事実に基づいたものであったり、根拠があるのか、について疑問に感じる部分があった。 | 意見共有意見を取り入れる 「命」とは、「世界の環境問題」とは、について今まで深く考えたことがなかったため、かなり難しく感じたが、ジグゾー活動で様々な人から多種多様な意見を聞くことができ、それをマップニング（可視化）することはとてもおもしろく、楽しかった。 |
| E | 同じ班の中では、もう他に問題を解決する方法がないと思っいていても、他のメンバーと話す新しい発見があるんだという発見があった。 | 他者の意見の大切さ 世界には（他に）どんな問題があるのか、世界の問題を解決するために私達にできることは何か。 | 協力の楽しさ 仲間と協力することは楽しい。世界をより良くしたい。 |
| F | 様々な意見を取り入れる大切さを知った。また、世界の現状について改めて知ることができた。 | 現実や事実を「知る」大切さ 自分たち出来ること 貧しさとは、単に財産の無いことではない？平和とは何か。平和であり続けるためには…。世界にある問題を解決しきれいていないのは何故か。（やるべきことは提示されているのではないのか）人間の根本となるようなものは何なのか。 | 世界を良くしたい 様々な概念の定義の模索 班で出した意見をまとめる。色んな人の考えを聞く。問題について知る。（なぜバタゴニアに人が住めないのか） |
| G | 問題を解決するにあたって、解決案が技術面と意識面の二通りに分類できる。また、技術面を解決するためには、先に意識面を解決する必要があることが分かった。まずは解決したい問題について、よく知ることが大切だと思った。 | 人間の根本 世界の現実からみる協力の難しさ 議論の中で「世界のみんなで協力しよう」という言葉が何度も出てきたが、そのようなことは今現在戦争が起きており、全く意見や考え方が食い違っている世界では、非常に難しく実現するにはかなりの時間が必要になるのではないかと思った。 | まとめる意見を開く課題を知る 情報世界に行き届いていないと考えたため、どのようにしたら世界中の人々に知ってもらえるかを考え、活動した。 |
| H | 私や班の友達、ジグゾー活動をして話した友達のみならず、バタゴニアという国がどこに位置するのかわかっておらず、全く世界の情報が行き届いていないことが分かった。まずはバタゴニアという国をみんなに知ってもらえるように情報発信を行えば良いと思う。 | 現実や事実を「知る」大切さ 「知る」大切さ 問題の分類 | 事実から必要なことを模索 |

(iii) 展開における発問の検討と工夫
—Outputを充実させるために—

以上のようなジグゾー活動を授業の中心に据えるにあたって、発問3、4の検討と工夫が指導案作成段階で最も苦労したことであった。ここでは、指導案作成段階における工夫点について述べておきた

い。高次的思考を働かせるジグゾー活動を行うために、より明確で具体的な問いを発問3では意識した。以下に示したように、指導案検討第一段階から第四段階までを比較すると、発問が生徒にとってより明確で、考えやすい具体的な問いへと変わっていていることが分かる。また50分で本授業を完

| | 発問3 | 発問4 |
|---------------|--|--|
| 指導案検討第1段階 | ムヒカ大統領は、 人類に必要なものは、何であり、もし800億ドル持っていたなら、何に使うと考えるでしょうか。 ムヒカ大統領の生き様から考えてみましょう。 ※ムヒカ大統領が述べた「命を愛するための投資」の五項目を生徒たちに考えさせたい、と授業者は考えていた。 | 平和な未来を切り拓くために、必要なものやぶつかる壁は何で、必要なものを揃えたり、壁を乗り越えるために欠かせないもの（こと）は何だろうか。 |
| 指導案検討第2段階 | ムヒカ大統領は、 人類に必要なものは、「命を愛するための投資」と考え、具体的に五つのことを実現したいと述べています。 ムヒカ大統領は なぜそう考えたと思っいますか。一つを選び、その理由を考えて下さい。 また それを実現するために必要なものについても議論 しなさい。 ※ムヒカ大統領が考えた「命を愛するための投資」を提示。 | 平和な未来を切り拓くために、必要なものやぶつかる壁は何で、必要なものを揃えたり、壁を乗り越えるために欠かせないもの（こと）は何か。 |
| 指導案検討第3段階 | ムヒカ大統領は、「人類に必要なものは、『命を愛するための投資』である」と述べています。そしてムヒカ大統領は、以下の五つを例として挙げています。そのうちの一つを実現するために（与えられたテーマ）、 必要なこととは何ですか。 また、なぜそう考えますか。 | 平和な未来を切り拓くために、自分にとって必要なものやぶつかる壁は何で、その壁を乗り越えるために、 自分に必要なこと（こと）は何か。 |
| 指導案検討第4段階【本時】 | ムヒカ大統領は、「人類に必要なものは、『命を愛するための投資』である」と述べています。そしてムヒカ大統領は、以下の五つを例として挙げています。そのうちの一つを実現するために（与えられたテーマ）、 今、世界に必要なこととは何ですか。 また、なぜそう考えますか。 | ***** |

結するための見通しを授業者側が持った授業設計に
するために、本実践では発問4を行わずにオープン
エンドで終わることとした。第四段階の指導案で授
業実践を行ったことによって、生徒たちがジグゾー
活動から学んだことや考えたことなどを共有する時
間を持つことができたので、主体的・対話的に平和
について考えることができ、生徒の平和についての
学びをより深められたと考える。さらに時間短縮の
為に、読み物教材の範読を授業内で行わず、授業前
日の終礼時間を用いて教材の範読を行った。このよ
うな工夫も、展開場面での学びを充実させるために
大切であったと考える。

Ⅲ. 本授業実践における学びの成果と課題

1. ワードクラウドと単語出現頻度による分析

授業後の生徒の感想をテキストマイニングで解析
した。図18、19に示したワードクラウドと単語出現
頻度による分析では、「思う」「考える」「できる」
「感じる」など、生徒が授業で平和について探究し
たことを見取ることができる。また単語出現頻度の
名詞の結果からは、「世界」「必要」「問題」「幸せ」
「解決」など、本授業の内容項目である「C-18 国際
理解と国際貢献」に関わる用語が多く見られたこと
が分かった。以上のことから、本授業実践では、本
授業の内容項目である道徳的価値に一定、迫ること
ができたと考える。

2. ワークシートと感想文を用いての分析

生徒たち一人ひとりの授業の感想と授業ワーク
シートの記述から、平和についての本授業での学び
の深まりの分析を試みたい。はじめに、授業ワーク
シートによる分析から分かる平和と幸せを希求する
姿勢についてである。導入で昨年度の平和学習を振
り返ったことで、発問2において生徒たちが「幸せ
とは何なのか」と、自分の幸せを改めて定義づける
必要性に気づいたり、自分なりの答えを持っている
生徒は、今の世界の現状と自分が考える幸せの違い
について問題提起したり、あるいは幸せとは何なの

かを自分自身に問いかけ、探究しようとする姿勢が
多く見受けられた。図20は、生徒たちが平和や幸
せについて自己内対話する様子を示したものであ
る。これらの記述から分かるように、どの生徒から
も幸せについて探究する姿勢を見取ることができ
たことは大きな成果であると考えている。

次に、授業ワークシートと感想文による分析から
見取る考え議論する道徳実践の成果について述べ
たい。本授業は、「生徒がともに考え、議論する道徳
授業」を目指したものであったので、授業における
授業者と生徒の発話が1:1になるような実践を目指
した。計画通り、授業者と生徒との発話は、ほぼ
1:1という結果であった。このような生徒がともに
考え議論する授業実践でのワークシートから、生徒
が自己内対話し、クラスメイトの考えを受容しなが
ら自分の考えを深めている様子を見取ることができ
た。ここからは、具体例について述べていく。

一つ目は、クラスメイトとともに意見や考えを共
有した成果についてである。生徒Aは、図21に示
したように、発問2の問いに対して「人類に対する
訴え」と自分の考えを記した後に、「儲けのことし
か考えていない今人類に対する（訴え）」と追記
し、さらに「これは正しいことなのか」「世界中の
人たちが満足して生きているのか」「自分のことし
か考えていない」と自問自答する様子を記録して
いる。また図22から分かるように生徒Bは、クラス
メイトの意見を矢印を使って自分の意見と結び付け
たり、発問2の意見共有を通して「（ムヒカ大統領
は）大統領としてではなく、一人の「人」としてス
ピーチしたのではないかと自分の意見を付け加え
ている。以上のことから、学級全体でムヒカ大統領
の行為や行動の動機について考える段階におい
ても、生徒たちはムヒカ大統領の生き方や考え方につ
いて深く考えようと自己内対話を繰り返していたこ
とを見取ることができた。

次に、「ねらい」「教材」「指導法」を精選した
STEAM教育を取り入れたジグゾー活動だからこそ活
かせた他教科の知識や体験についてである。図23、

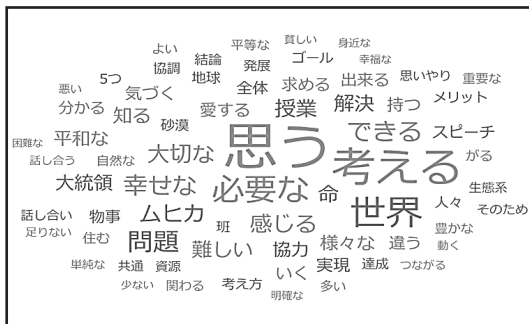


図18 ワードクラウドによる分析結果

| ■ 名詞 | スコア | 出現頻度 | ■ 動詞 | スコア | 出現頻度 |
|------|-------|------|------|-------|------|
| 世界 | 0.06 | 43 | 思う | 0.60 | 90 |
| 必要 | 0.71 | 36 | 考える | 0.50 | 59 |
| 問題 | 0.03 | 23 | できる | 0.79 | 25 |
| 幸せ | 0.66 | 20 | 感じる | 0.55 | 17 |
| 大切 | 0.13 | 17 | 知る | 0.64 | 16 |
| ムヒカ | 0.527 | 15 | 分かる | 0.38 | 10 |
| 授業 | 0.30 | 14 | いく | 0.19 | 10 |
| 解決 | 0.96 | 13 | 言う | 0.08 | 10 |
| 命 | 0.70 | 12 | 要する | 0.247 | 9 |
| 大統領 | 0.227 | 11 | 気づく | 0.68 | 9 |
| 様々 | 0.98 | 10 | 持つ | 0.24 | 9 |
| 平和 | 0.16 | 10 | 求める | 0.43 | 8 |
| 協力 | 0.64 | 10 | 違う | 0.25 | 8 |
| 実現 | 0.41 | 9 | 出来る | 0.17 | 9 |
| 今回 | 0.45 | 9 | 住む | 0.43 | 8 |

図19 単語出現頻度

| | |
|--|--|
| <p><自分の考え></p> <p>著者がいっている見かけの幸せも重要ではないということも考えたい。</p> <p>・人々の幸せについて一度自分でも考えたこと。</p> | <p><みんなの考え></p> <p>大統領の任命書案を9月19日の大統領選に向けて提出された。この案は、大統領選に向けて提出された。大統領選に向けて提出された。</p> <p>・会議での主張と和議に入っているのか？</p> <p>・当選後のことばかりが注目されてきている。</p> <p>・人にとって幸せな人生とは？</p> <p>・本来人間が持っている慈悲の心、大切なのは、命の尊厳を大切に。</p> |
| <p><自分の考え></p> <p>・選挙の服を着た時、何を考えているのか？</p> <p>・他の人を助けるために、自分が何をすべきか？</p> <p>・自分に何が出来るのか？</p> <p>・自分に何が出来るのか？</p> <p>・自分に何が出来るのか？</p> | <p><みんなの考え></p> <p>・自分が自立して、自分の人生で自由に生きていく。</p> <p>・本当に自分らしく生きていくためには、自分自身を大切にすることが必要だ。</p> <p>・当選後のことばかりが注目されている。</p> <p>・人々にとって幸せな人生とは？</p> <p>・本来人間が持っている慈悲の心、大切なのは、命の尊厳を大切に。</p> <p>・人々の幸せを大切にすることが、自分自身のためにもなる。</p> |
| <p><自分の考え></p> <p>・選挙の服を着た時、何を考えているのか？</p> <p>・他の人を助けるために、自分が何をすべきか？</p> <p>・自分に何が出来るのか？</p> <p>・自分に何が出来るのか？</p> <p>・自分に何が出来るのか？</p> | <p><みんなの考え></p> <p>・自分が自立して、自分の人生で自由に生きていく。</p> <p>・本当に自分らしく生きていくためには、自分自身を大切にすることが必要だ。</p> <p>・当選後のことばかりが注目されている。</p> <p>・人々にとって幸せな人生とは？</p> <p>・本来人間が持っている慈悲の心、大切なのは、命の尊厳を大切に。</p> <p>・人々の幸せを大切にすることが、自分自身のためにもなる。</p> |

図 20 生徒たちのワークシート

| | |
|---|--|
| <p><自分の考え></p> <p>民が苦しんでいるのに自分だけ幸せな生活を送っているのは、長期的には必ずしも良いことではない。</p> <p>・人々の苦しみを減らすために、自分が何をすべきか？</p> <p>・自分に何が出来るのか？</p> <p>・自分に何が出来るのか？</p> <p>・自分に何が出来るのか？</p> | <p><みんなの考え></p> <p>・自分の人生を見直さなければならない。</p> <p>・自分が目覚めた。大統領選に向けて準備が完了した。大統領選に向けて準備が完了した。</p> <p>・自分が目覚めた。大統領選に向けて準備が完了した。</p> <p>・自分が目覚めた。大統領選に向けて準備が完了した。</p> <p>・自分が目覚めた。大統領選に向けて準備が完了した。</p> |
|---|--|

図 21 生徒Aのワークシート

| | |
|---|---|
| <p><自分の考え></p> <p>Q. 大統領選の結果は、選挙の仕組みがどうなっているのか？</p> <p>・自分が選挙の仕組みについてどう考えているのか？</p> <p>・自分が選挙の仕組みについてどう考えているのか？</p> <p>・自分が選挙の仕組みについてどう考えているのか？</p> | <p><みんなの考え></p> <p>・自分が選挙の仕組みについてどう考えているのか？</p> <p>・自分が選挙の仕組みについてどう考えているのか？</p> <p>・自分が選挙の仕組みについてどう考えているのか？</p> <p>・自分が選挙の仕組みについてどう考えているのか？</p> |
|---|---|

図 22 生徒Bのワークシート

24に示した生徒C、Dの感想から、与えられた探究テーマに関してクラスメイトとともに考え議論する中で、多様な見方・考え方に気づいていることが分かる。例えば、生徒Cが「本当にそれが必要なのか考えることができた」と述べているように、ムヒカ大統領の五つの命を愛するための投資の必要性について、根本的な視点から深く考える姿が見受けられた。また生徒Dが「他の教科からの視点もあり、様々な考えを生むことができ、とても良いと思う」と述べたり、生徒Cが「このような基礎の話合いが重要だということに気づくことができた」と

記述したりと、生徒C、Dはともに与えられた探究テーマについて考え、議論する必然性や意味を見出していることが分かった。さらに生徒DはSTEAM教育が取り入れられ、見方や考え方に広がりや深まりがあったと述べている。以上のことから、本授業にSTEAM教育を取り入れたことによって、他教科の知識やこれまでの経験や体験を活かしながら言語活動を行い、新たな課題発見→探究→価値創造や実現性の検討などという思考サイクルを繰り返すことで、生徒の学びがより豊かなものになったと見取ることができた。

今日の授業を通して、命を愛するために必要なことについて考えることができた。5つの目標を達成するために必要なこと、またそれは本当に必要なか話し合うことができた。達成するためには人手や技術(泳もどうやって運ぶか)、そのためのお金が必要だと思う。しかし、それは本当に必要なかと言った人がいた。砂漠には砂漠の生態系があると思うし、観光にいかしているところもあるだろう。そんな中で、「命を愛するために本当にそのような事業を行う必要があるだろうか。命は、地球そのもののよう、概念的な意味も含まれていると思う。そんな中で本当にそれが必要なか考えることができた。また、このお金の基礎の話し合いがとても重要だということに気づくことができた。

図 23 生徒Cの感想

あまり環境に対する問題、代わりがなかったかある不確実性のスピーチからこんな風に世界全体の発展につながると思われたいのでとても頭を悩ました。地球という家に入閣がマシなレバいたに思っているのに、人のためにどうかしたいと思えることとは違えず少し悲しい。しかし同じもの下についてクラスメイトと考えること、他の様々な視点でものをみることができたのでとてもよかった。教達代答するより、問題に対する対策は単純ではないと思う。世界のメダチは、かつたものを単純に考えることでムヒカさんのようなスピーチを言えたりするのがあると思えました。単純に考えたり人を困窮させたり、他の教科からの視点もあり、様々な考えを述べてきた。とても良いと思う。

図 24 生徒Dの感想

最後にジグゾー活動の成果についてである。最も大きな成果は、生徒たちが「命を愛するための投資の手段や方法は違っても、結論は同じである」ことを導き出すことができたことである。図 25、26、27 に示した生徒 E、F、G の感想にみられるように、ムヒカ大統領の投資の手段や方法は違えど、世界に必要なものは「思いやり」「協力」「国同士の関係の改善」ということに生徒たちが気づいたことが分かる。このような結論を導き出すことができたのは、ジグゾー活動がねらいに迫るタスク活動として有効であったことを示していると考えられる。またムヒカ大統領が述べた「命を愛するための投資」の命とは誰の命なのかという問いの答えの深まりもみられた。図 28 で生徒 H は、命とはその地域にある生態系、例えば砂漠にある様々な自然環境や生物も大切な命であると、新たな見方から命を捉えている。そしてその上で、論理的・批判的思考力も働かせながら、ムヒカ大統領の投資は「実現してもいいものなのか」という疑問も投げかけ、探究活動を続けている様子を見取ることができる。また生徒の中には、

人の命の連続性に注目し、人の命は繋がっているものである。「未来」も命に含まれると考える生徒たちもいた。以上のことから、本授業での生徒の学びは、クラスメイトとともに与えられたタスクを考え議論した結果、達成することができたものであり、また平和を多様な視点から多面的・多角的に捉えることができたと考えられる。

「平和」「華世」について答えることは、自分の人生(何れでもありあり)をせんでして、改めて考えてみるととても難しいが、たです。自分の権利「平和」「華世」と、世界全体で何をするかも変わってくることに気付きました。世界全体でできることとして班で考えて発表しました。この班も結論は似たことを言っていました。このことから、世界全体で必要なことは皆同じで明確にされ、それが実現できていることには「問題」と感じました。理由として(それはどうでも)「世界はもっとよく知ることがあります」と思っています。まず知ることが、それについて考えたアクションを一緒にしてあげたいので、積極的に世界の現状や問題点について意見を交換し合うことが大切だと思えました。世界全体の「平和」「華世」について改めて考えることができたため、次に自分自身の考え「平和」「華世」について考えてみて、次に班のことは調べ、また様々なことを知ってみたいと思っています。

図 25 生徒Eの感想

どれもテーマは異なっている。環境問題という点では共通しているが、必要に応じて考えることで「人々との協力」「国同士の関係改善」など。人々同士の関係が大変にならざるを得ない。ムヒカさんのスピーチのように、人間が発展するためのために、しあわせを築くこと、つまり人々との協力関係が大切だと思える。そのため、何をすべきかを考えることが、これからの課題になると思う。

図 26 生徒Fの感想

私たちは日本という平和で豊かな国に住んでいるからこそ、どんどんと欲しがる物が増えていく。貧しい人達が欲しがると思う物は何と持っている上に欲しがることで地球温暖化にもつながっているだろう。そんな豊かな国が本当に世界平和を望むのなら、できることはたくさんあると考える。しかし、そんな国は自国のメリットがない限りは行動しない。たしかにメリット無しに行動することに抵抗は私もある。でも、そんな考えではいつまでも世界が本当に協調することはできないのではないと思う。人の心には、少くとも慈悲の心が存在するだろう。人のその心がメリットを追い求める気持ちも抱いた時、世界協調の実現が真に動くことに繋がるのではないかと考えた。

図 27 生徒Gの感想

愛を込めて、今度も頑張りたい。その目標を達成しようと思えば、目的、計画、方法を考える。そして、でも私はこの授業で必要なのは基礎的なことだと思ふ。もし一つ一つを積み上げていくことで、一番下の基盤をしっかりしていれば、全てががらぎらしてほしく思う。これはどんなことにもあてはまると思う。その上で私は、しっかり基礎を見つめてから考えていくのが人生で大事なことだと思ふ。命を愛する、とある。私も、私は授業で一番最初、命を愛する、とある。人類が及ぼす地球の汚染と愛する、とある。これは、私は、授業をうけて、様々な視点から物事を見ることができるようになり、生態系に関して、その砂漠に住んでいる命も命を愛する、とある。命を愛する、とある。本当に達成したい目標がある。そして、今までの授業で、私もそれに合わせて、同じように感じる。これは、私も、

図 28 生徒Hの感想

「生徒がともに平和について考え、議論する道徳授業」という目標を柱とし、道徳にSTEAM教育を取り入れた新たな授業実践に取り組む試みは、「ねらい」「教材」「指導法」を精選した授業実践であったので、生徒たちは多面的・多角的な視点から平和について考えることができた。そしてまた、ジグソー活動を通して、自分が持っている知識や経験などを活用しながら、解のない問いを考え続ける際に必要となる新たな課題発見→探究→実現性の検討などという探究のプロセスを経験する中で、論理的・批判的思考力を活かし自分の意見をクラスメイトと共有できたことは大きな成果である。

IV. 平和学習と道徳とを繋いだ授業実践の成果と課題

昨年度、作成したTenstagramと本授業後の課題として設定したTenstagramとを比較することで、生徒の平和についての見方や考え方の深まりを分析することを試みた。その結果、自分の生活と世界の現状とを比較しながら、生徒たちが平和についてグローバルな視点から捉えたり、自然との共存の大切さや何かを成し遂げるときの人の協力の大切さを改めて感じていることを見取ることができた。そしてまた、本授業で目指した平和を自ら掴み取るという未来を見据えた視点へと学びを深めている生徒もいることが分かった。以下に生徒の作品とともに、細かな分析を試みることにしたい。

1. 灯りが当たり前ではない国々に目を向ける — 「灯り」が表す人々のぬくもり —

図 29、30 に示した生徒A、Bの作品では、とも

に「灯り」に注目し、灯りが人々の生活を表し、心穏やかな生活を送っている象徴であることを表現している。生徒Aの作品をさらに発展させた生徒Bは、灯りのない世界で生活している人々に目を向け、日本という灯りが当たり前にある場所ばかりではなく、世界には戦争や紛争、貧困など、様々な事情によりインフラ設備が整っておらず、電気が普及していない国々があることへと視野を広げている。また昨年度の作品と比較してみると、生徒Aが考える平和が本授業後のものは何が平和であるのかが具体化されていることも印象的である。



図 29 生徒Aの昨年度の作品（左側）と今年度の作品（右側）



図 30 生徒Bの昨年度の作品（左側）と今年度の作品（右側）

このように生徒A、Bはともに、自分にとっての平和を自由に表現する際、昨年度の作品では見られなかった、平和をグローバルな視点から捉え表現しているという点において共通している。グローバルな視点から平和を捉えることができた理由として、ムヒカ大統領の考え方の理解や命を愛するための投資についてクラスメイトとともに考える中でその必要性に気づいたのだと推測する。以上のことから、本授業は、ねらいであった「C-18 国際理解と国際貢献」に迫れたと、生徒の作品から考えることが出来る。

2. 空とスポーツから世界を考える

—世界に繋がる空。スポーツは世界を一つにする—

図31、32に示した生徒C、Dはともに「空」に注目し、空を通して世界は繋がっていることを表現している。国境を越えると戦争や紛争、貧困などによる未発達なライフラインなどで不自由な生活をしている人々がいる現実を目に向け、自分たちの日常的な日々の平和が世界中に広がる日が来ることを願っている。また生徒Eは、図33のようにスポーツという手段を通して、世界が繋がりとともにスポーツ出来る素晴らしさについて述べている。



図31 生徒Cの昨年度の作品（左側）と今年度の作品（右側）

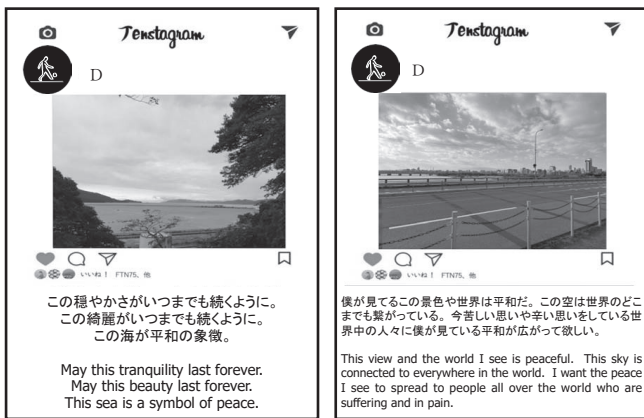


図32 生徒Dの昨年度の作品（左側）と今年度の作品（右側）



図33 生徒Eの昨年度の作品（左側）と今年度の作品（右側）

生徒C、D、Eは平和についてグローバルな視点から捉えることはもちろん、世界との繋がりを空とスポーツという自分たちと身近なものを具体例として用いることで表現していることが印象的である。このように世界中の人々が見上げる空、楽しむスポーツを通して、「世界は一つである」ことを表現した背景には、命を愛するための投資で学んだ「地球市民の一人としての自分」という意識を持つ大切さが作品に活かされていると考える。

3. 自然との共存

環境問題を考えるとき、人々の生活のみを考えるのではなく、その場所の生態系や開発に必要な資金など、様々な視点から物事を考える必要があることを、生徒たちはジグゾー活動から学んだ。その学びが図34、35に示した生徒F、Gの作品から見取ることができる。例えば生徒Fは、開発だけに目を向けるのではなく、共存する術を模索する方法を検討する必要があることを指摘している。また生徒Gも、自然と共存することの大切さを説いている。



図34 生徒Fの昨年度の作品（左側）と今年度の作品（右側）



図35 生徒Gの昨年度の作品（左側）と今年度の作品（右側）

生徒F、Gともに、ジグゾー活動を通して学んだ、世界平和を実現する際には、動物や生物、またそれらが生きる環境そのものも大切な命と考え、生

態系を破壊したり、脅かすことがないように注意を払う必要があるという事実への気づきをそれぞれの作品で表現している。これらの二作品にも、本授業での学びが活かされていると考える。

4. 協力する大切さ

本授業実践では、クラスメイトとともに平和について考え議論することを通して、生徒たちは自身の平和や幸せについての考えを見直したり、深めたりすることが出来た。また環境問題について考えたジグゾー活動に、クラスメイトとともに取り組む中で、新たな見方・考え方に気づくことができた経験から、仲間と協力することの大切さに改めて気づいた生徒も多くいた。生徒Hは、自分の生活と本授業実践で改めて感じた協力の大切さを結び付け、仲間と協力し合ってお互いに感謝し合うことを平和と捉えている図 36 のような作品を作成した。



図 36 生徒Hの昨年度の作品（左側）と今年度の作品（右側）

5. 平和な未来を掴み取る

図 37 に示した生徒 I の作品では、平和についての大きな学びの深まりがみられた。生徒 I は、昨年度の平和学習では、「平和が未来に続くように」という願いを作品に込めていたが、本授業実践後の作



図 37 生徒 I の昨年度の作品（左側）と今年度の作品（右側）

品では自分が考える「平和な世界を自分が創る」という決意を述べている。また生徒 I が考える平和は、本授業の導入で紹介した平和についての見方と似たものでもあるので、本授業内容の理解を通して、自己内対話を繰り返しながら、自らの平和観を導き出したと見取ることができる。

まとめると、昨年度と今年度の生徒作品を比較した際の大きな違いは、本授業後の多くの作品で戦争や紛争などが起こるリアルな世界の現状を踏まえ、グローバルな視点から平和が表現されていることである。自分の日常や好きな場所・ことなどを用いながら、世界の平和を表現する生徒が多くいた。そしてまた、ジグゾー活動で得た知見である「生態系もかけがえのない命」という新たな見方・考え方から、自然との共存を表現する生徒も複数いた。さらに平和な世界を自分たちが創っていくという姿勢を作品で表現する生徒もおり、昨年度からの平和の学びについての深まりをTenstagramという作品を通して見取ることが出来た。以上のことから、本授業実践が昨年度の平和学習と結びついた実践として十分な効果・効用があると考えられる。

V. 考察—本研究の目的は達成されたのか—

ここでは本実践をゴールとして、継続的に行ってきた平和学習の取組みが、新たな平和学習の提案として有効であるのか否かについて、その効果・効用をもとに本稿 I で示した本研究の三つの目的の達成状況をもとに検討したい。以下が筆者が考える達成状況である。達成状況は○△×の三段階で評価し、○を9割以上、△を9割未満から7割以上、×を7割未満の達成度として評価を試みた。

| 本研究の目的 | 達成状況 |
|---|------|
| (I) 多面的・多角的な視点から平和や幸せについて捉え、考えをより深めることができたか。 | ○ |
| (II) 昨年度の平和学習での学びを軸に、平和について自分たちで掴み取っていく必要があるという事実に気づくことができたか。 | △ |
| (III) 新たな平和学習の学びとして、本取組みにどのような効果・効用が見られ、課題は何か示すことができたか。 | ○ |

(I) に関しては、本授業実践での取組みや授業後の感想文、またまとめ課題であるTenstagramからも、多面的・多角的な視点から平和や幸せについて考えを深めている生徒たちの様子を見取ることができた。またその際、地球市民の一人として自国や自分だけの利益や豊かさを追求するのではなく、世界中の人々が幸せや平和を感じられるように考える視点を持つことの大切さについて学ぶ市民性教育の域

にまで、本平和学習の取組みでの学びを深められたことは大きな成果であった。以上のことから、(I) についての達成状況は9割以上であると考え。

一方(II)は、Society5.0時代を生き抜くにあたって、自分の幸せや平和を自ら努力し、周囲と知恵を出し合い対話しながら掴み取っていく必要があると考え設定した目標であったが、本実践では掴み取る必要がある事実気付かせるまで十分に学びを深められなかったと考える。本稿IV-5で示した生徒Iの作品から分かるように、平和な未来の創り手となる決意を新たに出来た生徒や平和な未来の創り手とならなければならない事実気づいた生徒も一定数いるが、多くの生徒がその決意や気づきにまで至らなかったと考える。そのため達成状況を9割未満、7割以上とした。しかしながら、生徒たちの多くが平和を掴むために必要なことは、「知識」「理解」「思考」「協力」であるという事実を導き出すことができたことは大きな成果である。また本稿III-2で、生徒Cが一つの目標を達成するために必要なことは「基礎の話し合い」と述べ、同様に生徒Hも目的・計画・方法などの大切さを述べた上で「基礎」の大切さを説いている(図23, 28参照)。このような生徒C、Hが述べる基礎は、OECDが開発した「ラーニング・コンパス(学びの羅針盤)」と共通している。図38に示したように、授業者から与えられた目標を達成するためには、学びの土台、つまり主体的・対話的に学ぼうとする姿勢が大切である。そのため授業の導入段階における動機づけなど、生徒が興味を持てる学習内容を精選す

る必要がある。本取組においては、平和についての学びを深めるというねらいのもと、教材と指導法を精選した授業設計を行った上で授業の導入の工夫を行い、生徒たちが平和について学ぼうとする意欲を高められるように意識した。導入での工夫は展開場面へと繋がり、生徒たちは設定された目標達成に向けて自らで目的意識を設定し、ジグソー活動で自分の知識や考えなどを共有しながら、クラスメイトとともに新たな価値を創造したり、ジレンマに陥ったりしながらも、与えられた探究テーマについて世界ができることを考える学習のプロセスを経験することができた。解のない物事を考える探究学習のプロセスを経験することを通して、生徒C、Hは学びの基礎の大切さに気づき、その結果、主体的・対話的で深い学びが実現した。以上のことから、(II) に関しても概ね目的は達成されたと考える。

最後に(III)についてである。引揚、ユダヤ難民、ポーランド孤児についての学びを本授業では環境問題を考えることへと発展させたように、考えるテーマや得られた知識は全く異なるものであったが、「平和を希求する」という一つの目標に向かって、生徒たちは自分の知識と体験を活用しながらクラスメイトとともに、平和について探究することが出来た。探究活動では、ムヒカ大統領の考える愛のある投資は、「本当に愛のある投資と言えるのか」など、ジレンマに陥りながらも、平和について多面的・多角的な視点から考えることが出来た。その結果、周囲の人々や自然と共存することの大切さに気づいたり、自分の無知さを痛感し、知ることや学ぶことの大切さを改めて実感する生徒も多くいた。このように生徒たちが周囲と対話し、平和を掴み取るために、「もっと学びたい」「もっと学ばなければならない」と自覚しながら、学びの本質に迫る様子うかがえたことは大きな成果であった。以上のことから、平和学習をSTEAM教育を取り入れた道徳授業へと繋いだ新たな平和学習の実践は、生徒の平和についての学びにとって有効的であると考え。しかしながら課題としては、道徳にSTEAM教育を取り入れる教材開発の難しさと指導法の工夫が挙げられる。授業者がどのような読み物教材や補助教材を用いてSTEAM教育を取り入れ、どのような指導法を用いて授業デザインをするのかが、生徒の学びを大きく左右する。そのため、教育現場ではより多くのSTEAM教育を取り入れた道徳授業を実践し、教材化しながら、その有効性を検証し、より精選された教材を作ることが大切であると考え。また教材選びの後は、その教材をどのような指導法を用いてゴールへと導いていくのかも重要である。予め考えた発問か

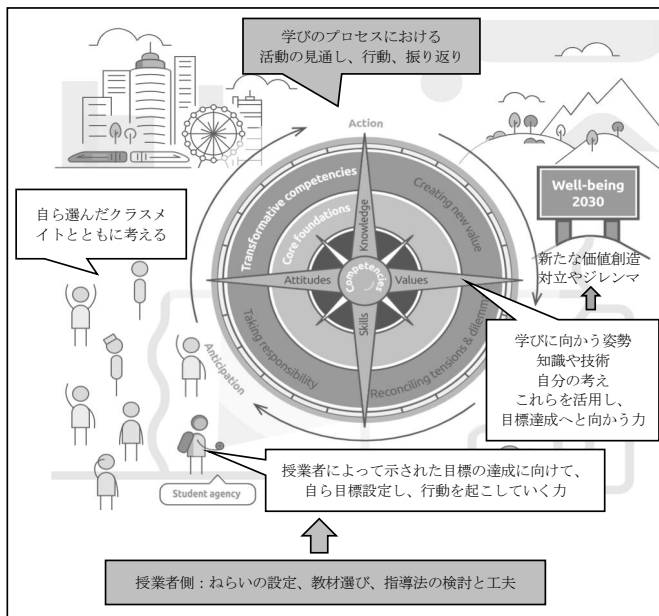


図38 生徒が考えた「学びの基礎」
(Learning Compassをもとに作成)

ら得られた生徒の考えをより深めるために、これまで向き合ってきた問いを補助発問として投げかけることで、生徒たちの思考を活性化し、新たな考えを掘り出しながら、より深い探究活動へと導けるように、目標とする道徳的価値に迫る工夫を行う必要がある。そのために、先進的な教育活動を行う本校のような教育研究校を中心に、本授業実践のようなSTEAM教育を取り入れた実践が多く行われ、その成果が蓄積される中で多くの学校がSTEAM教育を取り入れた授業に取組み易くなるような環境を整えることが求められている。今後も引き続き、より多くのSTEAM教育を取り入れた道徳の教材開発と検証を行い、その実践の記録と成果を積み重ねながら情報発信を行うことで地域の学校現場に貢献していきたい。

おわりに

Society5.0時代。様々な情報提供や手助けをしてくれるAIやロボットなどに翻弄されることなく、上手に共存していくことが求められる。ヒトが創り出した科学技術に乗り越えられないように、教育現場では、生徒たちが様々な知識や技術を身につける授業を行うことはもちろん、誰もが幸せに、平和に暮らせる世界を実現させるために、生徒たちが「もっと学びたい」「もっと学ばなければならない」と感じられるような授業実践を多く積み重ねる必要がある。本実践において生徒たちは正解のない問いに向き合い、問題の本質に迫る探究活動をクラスメイトとともにに行い対話することを通して、平和や幸せについての自分なりの価値観を創造しようとする姿が多く見受けられた。今後も、生徒たちは本授業実践で体験したような解のない問いに直面することが多くあるだろう。そんな時、本授業で経験した学習のプロセスのように、課題解決のために、積極的に自らの知識や技術を活用し、解決のために必要な人的資本を選び、自ら声をかけた人々（組織）と繋がりながら、より良い未来を創造するために努力を続けほしいと思う。本授業実践は、引揚やユダヤ難民、ポーランド孤児についての過去の歴史について学ぶ平和学習を出発点とし、世界に向けて「貧乏とは何か」「幸せとは何か」「開発とは本来どうあるべきか」と問いかけたムヒカ大統領の生き方や考え方に触れることを通して、平和についての学びをさらに深め、昨年度に行った平和学習を完結させることを目的としたものであった。過去に学び、現在について問い、よりよい未来の平和へと繋げていく。約一年半に及ぶ本平和学習は、平和や幸せは与えられるものではなく、自分たちで掴み取っていくものな

のだということを経験実践になったと思う。特に本授業実践においてSTEAM教育を取り入れたことは、生徒の各教科の学力も活用する実践となり、これまで教育現場では実践されていない点において、新たな道徳教育の提案として価値あるものになったと考える。今後も、目の前の生徒たちの実態に応じて、ねらいを設定し、適切な教材を選びながら、考える必然性を見出せる問いを作り、生徒がともに考え、議論できる指導法を検討し、生徒の学びを深められるような実践を多く積み重ねていきたい。

参考文献

- 池田真（2016）『CLIL（内容言語統合型学習）：上智大学外国語教育の新たな挑戦 第3巻 授業と教材』上智大学出版
- 池田真（2021）「教育現場でのCLIL活用のポイント」増進堂・受験研究社（非売品）
- 川村一彦（2022）『文・理を融合してリーダーを育てるSTEAM教育』幻冬舎
- くさばよしみ編（2014）『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』汐文社
- 国際情勢研究会（2016）『世界で一番貧しい大統領と呼ばれたホセ・ムヒカ』ゴマブックス
- OECD（2019）Learning Compass 2030 concept note

A Moral Lesson in Which Students Consider and Discuss Peace Together

— Proposal for a New Peace Study That Combines Moral Education with Integrated Learning,
Incorporating STEAM Education —

TANAKA Mariko

Abstract: This study examines the results and challenges faced in a practice aiming to deepen students' perspectives and ideas about peace by connecting peace studies on repatriation, Jewish refugees, and Polish orphans to moral education. In designing the moral education class, the class was based on CLIL (Content and Language Integrated Learning), and by incorporating STEAM education and setting tasks to activate students' higher-order thinking. We aimed to create a class in which students could think about and discuss peace together in an imaginative way. Through the process of actively sharing opinions and working together with classmates on tasks, the students were able to see peace from multiple and diverse perspectives, and they became aware of the need to redefine peace and happiness. In the class, they were also able to see peace and happiness from a global perspective as a part of global citizenship. Students tend not to think about peace or happiness as their own problems. They studied the social truth that knowledge, understanding, thought, and cooperation are necessary to understand peace through interaction using knowledge and experience.

Key Words: Moral Education, Peace Studies, STEAM Education, Integrated Learning

特別の教科 道徳 学習指導案

授業者：3年D組担任 田中 真理子

- 日時 令和5年11月11日（土） 授業Ⅰ [9時25分～10時15分]
- 学年・組 第3学年D組（計36名）
- 場所 2年A組教室（北館3階）
- 主題名 「私にとっての平和って？」【C-18 国際理解と国際貢献】
- 教材名 「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」くさばよし編集、汐文社、2014
「もし800億ドル持っていたら？ムヒカ大統領の答えは…映画「世界でいちばん貧しい大統領 愛と闘争の男、ホセ・ムヒカ」本編映像、YouTube

6. 主題設定の理由
(1) ねらいとする価値について
Society 1.0の狩猟時代から情報社会である Society 4.0時代の現在に至るまでの時代の流れの中で、私たちの生活は大きな変化を遂げてきた。そして、もうすぐそばに迫り来る Society 5.0時代では、AIやロボット、ドローンなどの高度な科学技術と私たちの生活を融合させながら、より豊かな未来を自らの力で担い取っていくことが求められている。一方、Society 1.0時代からずっと変わらないものは何だろうか。自分が、家族が、所属コミュニティがともに支え合って生きること、そして日々の生活の中で、自分の「平和」を築いていくことは、今までも、そしてこれからも変わることはないであろう。

世界中を自を向けよう。世界には、私たちが解決していなければならない戦争や紛争、飢饉や医療問題、性による不平等など、地球規模の諸課題が山積みである。そんな問題に、科学技術を駆使しながら、他者と対話を深め、世界の平和と人類の発展に寄与する子どもたちを育てるために必要なことは何だろうか。それは子どもたち一人ひとりが、世界の真実を追究するために、

- 社会システムの構造についての知識を得、その理解を深めること
- 国際的視野に立ち、平和や発展に関して自分事として考えること
- 自分の平和や発展についての考えを、他者と共有し、多様な見方・考え方を働かせながら、自身の考えを問い続け、深化（新化）させていくこと

という3つの段階的な学びではないかと考えた。自分だけの平和や発展だけを追究し続けるのではなく、社会的・政治的弱者も含む、他の立場から見て、公平・公正な視点から物事を考える力、他者の意見を受容し、柔軟に自分の考えを深めていく力を育むことは、多面的・多角的な視点から世界の平和と人類の発展を促すためには欠かせないものである。

私たちの生活（衣食住）が、諸外国によって支えられていることは周知の事実となるとともに、YouTube や TikTok などを通して、互いの国の伝統や文化、最新の流行などを発信し合いながら、違いを受容し、楽しむ関係性となっている側面が見られる。このようなグローバルな相互関係の中で生きる私たちにとって、自分だけ「平和」であればよい、自国だけ「発展」できればよいという欲求を捨て、世界の平和と人類の発展について、国際的視野に立つて考える必要がある。そのために、平和・発展についての一面の見方から脱却し、世界の現実を知った上で、生徒一人ひとりが多面的・多角的な側面から、平和と発展を捉え、それらを自分たちで担い取っていく姿勢を育みたい。「平和」「発展」という馴染み深い言葉が、普段あまり考えないことを、自分事として捉え、各教科学習を含むこれまでの様々な学びや体験とつなぎ合わせながら思考し、持続可能な世界の平和の実現に向けて行動に移す力を持った生徒、平和な未来を自分の力で担い取り、切り拓く強さを持った生徒を育てたい。

- 生徒の実態について
75期生（現在の中学3年生）は、昨年9月に京都府舞鶴市、福井県敦賀市で、引揚やユダヤ難民について学ぶ平和

学習を行った。本授業では、その後、約1年間、様々な知識や体験を積み重ねてきた生徒たちの平和についての学びを深めることを目指したい。昨年度の学びの成果としては、

- 知識と体験の相互作用から、主体的・対話的で深い学びを達成することができたこと
 - 「平和とは何か」という問いに対して、自分なりの答えを持つことができたこと
- が挙げられる。一方、平和は自分たちで担い取っていくものではないか、という視点にまで学びを深めることが出来なかった課題がある。そこで本授業では、昨年度の平和学習での学びを振り返ることを導入し、平和学習での学びと本授業の学びを生徒たちがつなぎ合わせ、平和についての学びを深めてくれることを期待する。また、総合的な学習と道徳とを繋ぎ合わせた平和学習のまとめとして、昨年度の成果物であった Tenstagram を再度、作成させる（資料①②参照）。昨年度の課題設定は、非日常（舞鶴・敦賀）で考えた平和を写真に撮り、その写真に詰まった想いを教文でキャッチーに書くこととしたが、本授業の設定は、日常の中で考える平和とし、昨年度のものと学びの成果を体得させる。

- 教材について
「無限の消費と発展を求める社会は、人々を、地球を疲弊させる。発展は幸福のためになされなければならない。」この言葉は、2012年、ブラジルのリオデジャネイロで開催されたリオ会議（地球サミット）で、南米ウルグアイのムヒカ大統領が述べたスピーチの一節である。自分たち地球市民が目指す発展の方向性を問い直す必要性を説くムヒカ大統領の使命感と貫意は偉大なものである。また、質素な時々にネクタイなしのシャツ姿でリオ会議に出席したムヒカ大統領の姿、給料の大半を貧しい人のために寄付し、町から離れた農場に夫婦で暮らし、花や野菜を育て、吉打の愛車を自分で運転して仕事に向かったりするムヒカ大統領の生き方からは、決してブレることのない信念の強さを感じるとともに、自分の欲求を捨て、世界の平和のためにすべきことは何なのかを私たちに問いかける。
本当の貧しさとは何か。本当の豊かさとは何か。人は豊かになればなるほど、欲求がなくなっていくのか。本当の幸せとは何か。平和とは…。このような生涯普遍的な問いを考え、深めることによって、地球市民の一人としての自分に気づき、多面的・多角的な視点から平和について、幸せについて、持続可能な発展のために、自分にできることについて、改めて自分自身に問い、考えを深める機会としたい。また、附属天王寺 STEAM 教育を取り入れるにあたり、本授業では、導入において、①昨年度の成果物「Tenstagram」と課題作文を用いて、平和学習の振り返りを行うこと、②「発問3」で具体的な環境課題を取り入れることによって、道徳と理科という文理融合の授業となるよう工夫した。「発問3」では、地理分野や理科分野が得意な生徒が、自身の知識を存分に発揮し、思考を深め、仲間と知識や意見を共有する中で、より精選された考えや、創造的な意見が導き出されることを期待したい。

- ねらい
ムヒカ大統領のスピーチから、生徒一人ひとりが平和と発展について、自分自身で定義づけた上で、世界の平和と人類の発展のために、今できることと将来できることについて考える態度を育む。

| 指導過程 | 学習活動と主な発問 | 備考 |
|---------|---|--|
| 導入（3分） | ・2年生の平和学習での学びを振り返る。 | ※まとめ課題であった Tenstagram と課題作文を用いる。 |
| 展開（45分） | <ul style="list-style-type: none"> ・教材の確認 発問1 指節することもできるムヒカ大統領。なぜ貧しい指節が会議に出席したのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・身なりなんてどうでもいいから。 ・会議出席の目的は、自分のスピーチ（想い）を伝えることだから。 ・自分は、他の大統領とは違うことをアピールしたかったから。 ・自分のプライド。 | <ul style="list-style-type: none"> ※教材は読み読んでくる。 発問発問1 ムヒカ大統領は、何を大切と考えているのだろうか。 発問発問2 ムヒカ大統領は、どのように他の大統領と違っているのだろうか。 ※国際的な視点に立ち、「世界は一つである」ということを前提に思考させるように導く。 |
| 終末（2分） | 授業者の講話 | 時間が無い場合は、講話は省く。感想書きは、控室に戻って行う。（5分程度） |

発問2 ムヒカ大統領のスピーチに詰まっているものは何だろうか。

- ・貧しい国（他国）について考える気持ち
- ・貧しい国（他国）へのやさしさや思いやり
- ・世界の平和について貧しい国の立場に立って考える心を持つことの大切さ
- ・欲求と本当の発展、平和について考える姿勢
- ・一部の人や国だけでなく、「世界」「すべての人」を幸せにしたいという想いと使命感
- ・大統領としての本当にあるべき姿
- ・世界が間違った方向に進んでいるという危機感と警告
- ・地球市民として、未来を変えたいという想い
- ・問題の本質を見極め、解決に向けて挑戦し歩むことの必要性
- ・平和は個々の努力により実現するという事実

発問3 ムヒカ大統領は、「人類に必要なものは、『命を愛するための投資』である」と述べています。そしてムヒカ大統領は、以下の5つを例として挙げています。そのうちの1つを実現するために（与えられたテーマ）、今、世界に必要なことは何ですか。また、なぜそう考えますか。

発問発問4 ムヒカ大統領は、「人類に必要なものは、『命を愛するための投資』である」と述べています。そしてムヒカ大統領は、以下の5つを例として挙げています。そのうちの1つを実現するために（与えられたテーマ）、今、世界に必要なことは何ですか。また、なぜそう考えますか。

※自然、地球、人、未来など様々な反応を想定できる。

※個々人の欲求さなのか、人類のために出来ることなのかという2つの視点があることに注意する。
※生徒たちが考えたプロセスを大切にすることを心がけたい。

＜班活動の進め方＞
(I) 4人班になる。（テーマの提示）
(II) 各テーマについて、個人で考える。（1分）
自分の考えをワークシートに記入する。
(III) 班で意見交流（5分間）
※班に1枚横断紙を配布し、横断紙にマジックで自由に考えや意見を書き込む。
(IV) 5分後、シグノー活動を開始する。
※各班で予め指定された司会・進行は残る。
※3分×4回実施。
※4回目はもとの班に戻り、再度、自分の班の意見をまとめる。
(V) 全体交流

＜ムヒカ大統領の考え＞
人類に必要なものは、『命を愛するための投資』である。だからこそ、
(I) サハラ砂漠の真ん中に大量の塩水が必要で、気候変動の対策として、塩水を蒸発させる。
(II) サハラ北部の水で、アジアの乾燥地帯に飲み水を引く。
(III) アラスカの水でロッキーのふもとに川を作り、メキシコ北部まで流す。
(IV) バタゴニアを人が住めるようにする。
(V) アタカマ砂漠に木を植えて、世界一乾いた砂漠の気候を変える。

ムヒカ大統領のメッセージ「無限の消費と発展を求める社会は、人々を、地球を疲弊させる。発展は幸福のためになされなければならない」を意識させたい。

| | |
|--|--|
| ＜予想される生徒の考え＞ (I) サハラ砂漠の真ん中に大量の塩水が必要で、気候変動の対策として、塩水を蒸発させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・知識 ・技術 ・資金 ・マンパワー ・環境問題に小さなことから取組むひとり一人ひとりの協力（例、電気をこまめに消す、水を大切にするなど） |
| 終末（2分） | 授業者の講話 |

- 評価の視点
①平和や発展について、多面的・多角的な側面から捉えることができたか。
②平和や幸せを自分たちで担い取る必要がある事実が気づくことができたか。
③昨年度の学びと比較したとき、自らの平和についての学びを深めることができたか。

